

保育士養成におけるオペレッタ創作の効果
～社会人として求められる能力の獲得の可能性について～

佐々木友里・葛谷 潔昭

The positive effect of creating an operetta for a nursery teacher trainee
～ The possibilities of attaining the abilities and knowledge
to become a reliable society member ～

Yuri Sasaki, Kiyooki Kuzuya

豊岡短期大学 論集

第 13 号 別冊

平成 28 年 12 月 20 日 発行

保育士養成におけるオペレッタ創作の効果 ～社会人として求められる能力の獲得の可能性について～

The positive effect of creating an operetta for a nursery teacher trainee
～ The possibilities of attaining the abilities and knowledge
to become a reliable society member ～

佐々木友里・葛谷 潔昭
Yuri Sasaki, Kiyooki Kuzuya

1. はじめに

近年、就職を控えた学生のコミュニケーション能力の低さが課題になっている¹⁾。全国の保育士養成校では、総合的な表現力を培うため、創作劇や総合的表現の取り組みが行われている²⁾。また、他の専門分野の大学・専門学校では社会人になるための対人関係、組織づくりなど、社会人になるためのキャリア形成に役立つものとして演劇ワークショップ（体験型学習）を取り入れる学校がある。また、小中学校においても、児童・生徒の自発性と創造性を培うために演劇ワークショップなどを取り入れている³⁾。

慈恵福祉保育専門学校では、福祉保育学科創設時の2004年度より、保育の専門性および対人関係形成能力の醸成、特に、責任感、自主性と協働性、コミュニケーション能力の醸成、更に、保育内容領域で重視している「表現力」の向上を目的として、更には卒業条件、社会人になるために求められる能力形成の場として、「音楽劇（オペレッタ）」を「卒業研究」と「音楽総合」という科目として取り入れている（2006年度より保育学科の創設により、同学科でも同様のプログラムを導入している）。

上記のことから、この科目の教育目標は、「社会人として必要なスキルの醸成」であると言えるため、これまで収集してきた学生に対するグループワークやアンケートの結果を検証し直し、社会人として必要とされるスキルの醸成にどれだけつながっているか検証し、さらに文部科学省が考える社会人として求められるスキルとの比較を試みることにした。

2. 調査方法

今回の研究目的を達成するために、下記の手順で研究を進めていくこととし、今回の研究報告では、そのうち1)～3)について報告する。

1) 本校の「音楽総合・卒業研究（オペレッタ）」の授業内で行ったグループワークでキーワードの

設定およびキーセンテンスの設定を行った(2008年度~2010年度)。

- 2) 本校の「音楽総合・卒業研究(オペレッタ)」の授業でキーセンテンスの選択のアンケートを行った(2011年度~2015年度)。その結果をもとに、キーセンテンスを選択した者の比率を出した。
- 3) 上記の「2」の結果から、本科目の目的との照らし合わせ、その目的の1つである社会人のなるための基礎能力(「社会人基礎力」、詳細は後述)との比較を行った。
- 4) 上記「3」を踏まえ、「音楽総合・卒業研究(オペレッタ)」の取り組みを通して本校学生が「社会人基礎力」を獲得の実感についてアンケート調査等によって明らかにした。

3. 調査結果

1) 選択肢の作成

まずは、アンケート調査の基になる、研究方法の「1」の結果を表1で示す。2008年度~2010年度に実施したもので、具体的には、受講した学生が「音楽総合・卒業研究(オペレッタ)」の作品発表後に提出した自身の感想文を読み上げて、グループ討議を行い、オペレッタ制作の取り組みの意義や感じたことをキーワード(3~10文字程度)で表現するように求めた。後悔や不満などの感情面、自己覚知や責任感、向上心、友情といった人格成長面、コミュニケーション能力や協力といった人間関係や協調性の面、そして、実行後の達成感の面のキーワードがあがった。

更に、表1のキーワードに基づいて2010年度受講の学生が授業内のグループワークでキーセンテンスを25文字以内(±1文字程度)で出させた。その結果を元にして、筆者が同授業内で、そのキーセンテンスの内容の重複を排除して、学生と共にキーセンテンスを決定し、整理しやすいように、マイ

表1 オペレッタの意義・感想のキーワード(分類用キーワード)

A 後悔	F 行動力	K 友情
B 技術的なこと	G 自己覚知	L 責任感
C 精神的な揺らぎ	H 協力	M コミュニケーション能力
D 不満	I 向上心	
E 人間関係	J 達成感	

表2 年度別回収率、全年度回収率

年度	学生数	回答数	回収率
2011	43	31	72.1%
2012	59	43	72.9%
2013	56	41	73.2%
2014	39	29	74.4%
2015	53	39	73.6%
合計	250	183	73.2%

表3 調査全結果（上位順）（N=183）

マイナス面のキーセンテンス				プラス面のキーセンテンス			
	比率	分類	回答数		比率	分類	回答数
ア	26.3%	A	48	コ	36.8%	H	67
カ	26.3%	B	48	エ	31.6%	J	58
オ	18.0%	F	33	コ	30.1%	J	55
ア	17.3%	D	32	ウ	29.3%	J	54
コ	17.3%	E	32	ウ	28.6%	J	52
ア	15.0%	A	28	ケ	25.6%	K	47
コ	15.0%	E	28	コ	21.1%	M	39
ア	12.8%	A	23	キ	18.8%	M	34
オ	12.8%	B	23	コ	18.8%	M	34
オ	12.0%	A	22	エ	18.0%	A	33
ク	11.3%	A	21	オ	18.0%	A	33
イ	10.5%	D	19	ク	18.0%	M	33
カ	10.5%	G	19	エ	17.3%	F	32
ウ	9.8%	B	18	ア	15.8%	I	29
オ	9.8%	B	18	ア	15.8%	I	29
コ	9.8%	E	18	オ	14.3%	B	26
ウ	9.8%	F	18	ア	14.3%	L	26
オ	9.0%	B	17	エ	12.8%	B	23
コ	9.0%	E	17	コ	12.8%	H	23
オ	8.3%	B	15	エ	12.0%	G	22
ア	8.3%	C	15	コ	12.0%	K	22
カ	7.5%	B	14	ケ	12.0%	M	22
コ	7.5%	E	14	オ	11.3%	B	21
ウ	6.8%	A	12	ケ	11.3%	H	21
エ	6.8%	B	12	ケ	11.3%	M	21
キ	6.8%	E	12	コ	10.5%	H	19
カ	6.0%	B	11	コ	9.8%	B	18
オ	5.3%	A	10	エ	9.8%	J	18
キ	5.3%	E	10	イ	9.8%	L	18
ウ	4.5%	A	8	ク	9.8%	M	18
ア	4.5%	C	8	コ	8.3%	H	15
ウ	4.5%	C	8	ケ	8.3%	K	15
シ	4.5%	C	8	ウ	7.5%	I	14
コ	4.5%	E	8	ケ	7.5%	K	14
ケ	4.5%	E	8	ウ	6.8%	I	12
キ	4.5%	E	8	ア	6.8%	I	12
ア	4.5%	F	8	コ	6.0%	H	11
ア	3.8%	A	7	エ	6.0%	J	11
ウ	3.8%	B	7	ケ	6.0%	K	11
オ	3.8%	B	7	エ	5.3%	J	10
ア	3.8%	C	7	キ	5.3%	M	10
ア	3.8%	G	7	コ	4.5%	H	8
ア	3.8%	G	7	ウ	4.5%	J	8
ケ	3.0%	E	6	ス	3.8%	J	7
エ	3.0%	G	6	ウ	3.0%	J	6
オ	2.3%	A	4	コ	3.0%	M	6
ウ	2.3%	A	4	イ	2.3%	C	4
ア	2.3%	C	4	コ	2.3%	K	4
シ	2.3%	C	4	エ	1.5%	B	3
イ	2.3%	D	4	ア	1.5%	I	3
コ	2.3%	E	4	ケ	1.5%	M	3
ア	2.3%	G	4	エ	0.8%	G	1
キ	2.3%	G	4	ケ	0.8%	J	1
ア	1.5%	A	3	ア	0.8%	J	1
シ	1.5%	C	3	ウ	0.8%	J	1
キ	1.5%	E	3	シ	0.8%	L	1
サ	1.5%	F	3	ケ	0.8%	M	1
ウ	1.5%	G	3	キ	0.8%	M	1
ア	0.8%	A	1	コ	0.8%	M	1
サ	0.8%	A	1				
ウ	0.8%	B	1				
エ	0.8%	B	1				
シ	0.8%	C	1				
シ	0.8%	C	1				
キ	0.8%	E	1				
コ	0.8%	E	1				

ナス面とプラス面に分けキーセンテンスを出した。例えば、マイナス面では、実施計画、開始時期、台本や脚本の作成時期、大道具の作成時期のついてのキーセンテンスが目立った。マイナス面は、メンバー間のコミュニケーションや協力関係の大切さ、良好な人間関係作りの重要性や、それらを実現

することの難しさを学んだことをあげたり、メンバーの人的・人格的な成長が図られたという内容のキーセンテンスがあがったりしていた。また、プラス面は、マイナスと重複するが、準備と計画性の大切さ、協力することの必要性を学んだとするキーセンテンス、達成できたことによる安心感を得たとするキーセンテンスがあがっていた。詳しい内容は、文末の表（表3の左欄）を参照されたい。

2) アンケートとその集計

研究方法の「2」では、上記の「1」で設定したキーセンテンスをオペレッタの作品発表後に選択させる（複数選択可）アンケート調査を行った。選択肢は、キーセンテンスの番号を選択させるものであった。

対象者は、本校の2011年度～2015年度の「音楽総合・卒業研究（オペレッタ）」の受講者250名であった。全体の回収率は73.2%で、回答者は183名であり、表2に示した通りであった（各年度の回答数は、2011年度は回収率72.1%、2012年度は回収率72.9%、2013年度は回収率73.2%、2014年度は回収率74.4%、2015年度は回収率73.6%）。

その結果、調査の全結果は表3で示しているが、キーワードで整理した上、上位を占めたものは表4・5の通りである。

学生が特に反省した部分（マイナス面）については、複数回答であるため、確実な数値ではないが、取り掛かりの遅さを含め計画性とその実行性の低さを回答したものが少なくとも4分の1以上いたと言える。つまり、計画性・責任感・自発性、学生同士のコミュニケーションのそれぞれが不足していたと学生が認識していたと言える。また、得られた能力や満足度につながった点（プラス面）については、「目標達成感」が多いが、項目の内容ごとに解釈をするならば、反省点と同じく、計画性・責任感・自発性、学生同士のコミュニケーション、他人との協力のそれぞれの大切さであった。また、オペレッタの取り組みを通して、劣悪だった人間関係を修復したことや友情をベースにした協力関係による目標達成を経験することの大切さを感じ取った学生が多かったと考える。

4. 考 察

1) アンケートの集計結果の再整理・分析

先述のアンケートの集計結果を再分析した。各項目のキーワードは異なるものの、キーセンテンスの内容をとらえなおし、学生が達成したり獲得したことと、学生が最後まで獲得できなかったり反省した点を整理してみた。その結果、「まとまりがなかった」「計画性がない」「行動が遅かった（早目に行動するべきだった）」「最後までやり遂げる大切さ」という内容から、学生は、「責任感」「計画性」の重要性を学び、「まとまりがなかった」「協力が必要だと学んだ」「友情と絆の大切さを学んだ」「安心感・満足感（を得た）」「意見を素直に聞く・受け入れる」といった内容から、学生は、「コミュニケーション能力」「人間関係構築能力」の大切さを学ぶことができたと言える。つまり、学生はオペレッタ創作によって、目標達成のために必要な条件を学生が自己課題として直面し、獲得したもしく

表4・5 オペレッタの意義・感想のキーセンテンス（上位項目のみ）（N=183）

マイナス面のキーセンテンス	比率	分類キーワード	回答数	社会人基礎力
まともらず、取り掛かりが遅かった	26.3%	A. 後悔	48	ア. 主体性
役のイメージが難しい	26.3%	B. 技術的なこと	48	カ. 創造力
計画性がない	18.0%	F. 行動力	33	オ. 計画力
人任せにしてしまった	17.3%	D. 不満	32	ア. 主体性
迷惑をかけた	17.3%	E. 人間関係	32	コ. 状況把握力
早めに行動すべきだった	15.0%	A. 後悔	28	ア. 主体性
グループがバラバラ、人間関係のトラブル	15.0%	E. 人間関係	28	コ. 状況把握力
無駄な時間を使った（ダラダラと過ごした）	12.8%	A. 後悔	23	ア. 主体性
大道具が間に合わない	12.8%	B. 技術的なこと	23	オ. 計画力
計画性がなかった	12.0%	A. 後悔	22	オ. 計画力

プラス面のキーセンテンス	比率	分類キーワード	回答数	社会人基礎力
協力が必要だと学んだ	36.8%	H. 協力	67	コ. 状況把握力
全てが活かされ色々な体験ができた	31.6%	J. 達成感	58	エ. 課題発見力
みんなで作り上げる楽しみを知った	30.1%	J. 達成感	55	コ. 状況把握力
最後までやり遂げる大切さを学んだ	29.3%	J. 達成感	54	ウ. 実行力
安心感・達成できた満足感	28.6%	J. 達成感	52	ウ. 実行力
友情・絆の大切さと喜びを学んだ	25.6%	K. 友情	47	ケ. 柔軟性
情報共有・連絡・確認の必要性がよくわかった	21.1%	M. コミュニケーション能力	39	コ. 状況把握力
意見を言う・伝える	18.8%	M. コミュニケーション能力	34	キ. 発信力
集団行動の難しさを学んだ	18.8%	M. コミュニケーション能力	34	コ. 状況把握力
準備の大切さを知った	18.0%	A. 後悔	33	エ. 課題発見力
計画性を持つことの大切さを知った	18.0%	A. 後悔	33	オ. 計画力
意見を素直に聞く・受け入れる	18.0%	M. コミュニケーション能力	33	ク. 傾聴力

表6 「社会人基礎力」一覧（その他は筆者追記）

力	能力要素	
前に踏み出す力	ア	主体性 物事に進んで取り組む力
	イ	働きかけ力 他人に働きかけ巻き込む力
	ウ	実行力 目的を設定し確実に行動する力
考え抜く力	エ	課題発見力 現状を分析し目的や課題を明らかにする力
	オ	計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
	カ	創造力 新しい価値を生み出す力
チームで働く力	キ	発信力 自分の意見をわかりやすく伝える力
	ク	傾聴力 相手の意見を丁寧に聴く力
	ケ	柔軟性 意見の違いや立場の違いを理解する力
	コ	状況把握力 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
	サ	規律性 社会のルールや人との約束を守る力
	シ	ストレスコントロール力 ストレスの発生源に対応する力
	ス	その他

は獲得の必要性を認識したと言える。特に、人間関係作りの難しさを実感しつつ、人間関係が良好になっている時、良好になった時の状況を分析し、良好な人間関係をベースに計画的に物事に取り組むことの重要性や、目標達成の充実感、実施後も努力の下で人間関係が良好に続いていくことに対する期待感を基盤にして、卒業後の生活と自己成長を期待するような傾向があると考察することが出来た。

2) 社会人の養成という視点からの分析

では、学生が直面した課題である、「責任感」「計画性」「コミュニケーション能力」「人間関係構築能力」等、今回の調査で明らかになった内容について、「社会人として必要なスキルの醸成の場」という目的にどれだけ叶っていたか分析してみることにした。

その際、参考にしたものは、「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」という報告書である⁴⁾。これは、文部科学省のコミュニケーション教育推進会議が取りまとめたもので、演劇と音楽表現などの芸術表現活動が、児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資するものであり、更には社会人としての基礎的能力の養成に資するものであることが示されている。その能力とは、経済産業省「社会人基礎力に関する研究会」で示された「社会人基礎力」のことであり、「基礎学力と専門知識を使いこなすことができる力」としている⁵⁾。これには、表6に示した通り「3つの力」と「12の能力要素」がある⁶⁾。今回の研究のデータとの相関性を見るために各キーセンテンスに社会人基礎力の「12の能力要素」の項目を当てはめてみた。その結果、上位の項目の全てに当てはめることができた(表4・5右端部参照、全結果は表3の左端部参照)。具体的には、学生が反省し今後の課題とした内容(マイナス面)では、「計画力」とその実行に当たる「主体性」、「状況把握力」が上位を占めていることがわかる。学生が経験を通して獲得したり必要だと感じたりした(プラス面)についても、「状況把握力」や「課題発見力」、「実行力」が上位を占めており、今の状況を把握し、判断し、積極的に行動することの大切さを学んだことが上位を占めていた。

5. 結論と今後の課題

以上、オペレッタ創作のアンケート分析と社会人基礎力の醸成の条件との比較を通して、本校の「音楽総合・卒業研究(オペレッタ)」が社会人にとって必要なスキルを獲得するために役に立つ取り組みであると考察することが出来た。オペレッタ創作を基に学生自身が自分自身や、自分自身に社会人になるために何が足りないのかを知ることができ、克服することができた、または克服する必要性を学んだといえるだろう。つまり、学生がグループで協力し共同作業を行った結果、みんなで一つのことを創り上げていく楽しみを感じ、やり遂げた達成感を通して自信をつけることを持つことができた。更に、その時その時の状況を把握し、各個人の立ち位置を理解し行動した学生も多く、他人の意見を傾聴しつつも自身の意見との相違に葛藤しながらも解決に導いたり、組織の一員として組織の中でどう動いたら良いのか、どのように人と関われば信頼を得られるのか、今後何が起こるのかの予測を行いつつ行動の選択をしたりするなど、社会人になってから起こりうる出来事の擬似体験になって

いると言える。

しかし、今回の調査・研究は、手順や内容が稚拙なものであったことは否めない。キーワードやキーセンテンスの作成を学生の意見に任せたため、それぞれの内容の文字数、具体性に差ができたり、内容の重なりができてしまったりした。またアンケート票は、回答者の性別を明確に確認できるような質問を設けていなかったため、性差を分析できるような工夫をしていなかった。今後は、確実な検証結果となるような工夫を心がけたい。

また、今回は、本校学生が導き出した感想およびその項目が「社会人基礎力」の項目に当てはまるか確認しただけのため、今後、改めて社会人基礎力の項目について、調査を行う必要があると考える。

参考文献

- 1) 『大学生の「社会人観」の把握と「社会人基礎力」の認知度向上実証に関する調査』, 平成21年度就職支援体制調査事業, 経済産業省,2010
- 2) 『教育現場と教員養成校における音楽劇・オペレッタの教育的意義についての考察』, 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学研究紀要, 44号, pp. 97-105, 2009
- 3) 『開かれた学校における演劇ワークショップが学びの創発性に与える影響：－Sawyer. KのCreativityとSocial Emergenceを重視して－』, 淑徳大学国際コミュニケーション学会, 2015
- 4) 『子どもたちのコミュニケーション能力を育むために～「話し合う・創る・表現する」ワークショップへの取組～審議経過報告のとりまとめについて～』, 文部科学省コミュニケーション教育推進会議, 2011 (2016年10月1日閲覧) http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/08/_icsFiles/afieldfile/2011/08/30/1310607_2.pdf
- 5) 『社会人基礎力に関する研究会－中間取りまとめ－』, 経済産業省社会人基礎力に関する研究会, 2006 (2016年10月1日閲覧) <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/chukanhon.pdf>
- 6) 『社会人基礎力 育成の手引き -日本の将来を託す若者を育てるために、教育の実践現場から』, 経済産業省・河合塾, 2010 (2016年10月1日閲覧) <http://www.wakuwaku-catch.com/社会人基礎力/社会人基礎力育成の手引き/>

